

事務事業評価シート（評価対象年度：令和 2 年度）

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		地域共生のまちづくり推進事業						②事業番号		7708							
③事業類型		3. 政策推進事業				④開始年度		令和	2	年度	⑤終了予定年度	令和	4	年度	設定なし		
⑥根拠法令等		☐ 法令		☐ 条例		☐ 規則		☐ 要綱		☐ 計画等		☐ その他		法令等の名称		地域再生法	
⑦実施手法		☐ 直営		☐ 全部委託		☐ 一部委託		☐ 補助・負担		☐ その他							
⑧関連予算科目コード				幹		9		項		5		目		9		細目	6
⑨担当部名				⑩担当課名										会計		一般会計	
教育部				文化振興課													

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市内の10代の子ども	① 市内の10代の子ども	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
図書館のロビーに、10代の子どもたちが気軽に立ち寄れる「ティーンズコーナー」を設置し、生きていくうえで遭遇する悩み解決に役立つ本や職業、進学に関する本、マイノリティの人の生き方にふれる本、漫画や気楽に読める小説やDVDなどもそろえる。 養成講座を受講した市民ボランティアの「きらめきサポーター」が、定期的に子どもたちの悩みや相談事に耳を傾ける。	① きらめきサポーター登録者数	人
	②	
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
10代の子どもたちが、自分らしい生き方を見つけ、自己肯定感を高めることを支援する。不安や悩みがあっても、相談に至らない場合もあり、話を聞いてくれる大人の存在が重要になる。きらめきサポーターが毎週、交代で子どもたちの話を聞き、場合によっては専門機関や専門家を紹介し、問題解決の道を探る。子どもたちが気軽に立ち寄れるコーナーがあることで、図書館資料を使った子どもの居場所の提供及び子どもの読書活動の推進につながる。	① きらめきサポーター活動日数	日
	②	
	③	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
全ての子どもや青少年が、個人として尊重されることで、相手を尊重し思いやりのある大人に育っていき、人権尊重のまちづくりに結び付く。	政策(章)	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち
	施策大(節)	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします
	施策中	3 青少年、子どもの健全育成
	施策小	4 子どもの居場所づくり

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H30実績	R1実績	R2実績	R3見込	R4目標	
対象指標①	市内の10代の子ども	人	—	—	6,396	—	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	きらめきサポーター登録者数	人	—	—	20	—	—	
活動指標②								新型コロナウイルスによる影響で実施回数や参加者減になった。
活動指標③								
成果指標①	きらめきサポーター活動日数	日	—	—	3	—	—	
成果指標②								事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	—	—	0.19	0.19		
	正職員	人	—	—	0.00	0.00		
	任期付職員	人	—	—	0.00	0.00		
	臨時職員	人	—	—	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	0	0	1,540	1,540		R2年度より地方創生推進交付金事業を活用した。
	直接事業費	千円	—	—	1,445	703		
	総事業費	千円	0	0	2,985	2,243		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	723	351		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	0	0	723	352		
	一般財源	千円	0	0	1,539	1,540		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	図書館利用が最も少ない年齢層である10代の子どもたちへのアプローチが必要であり、第2次子ども読書活動推進計画に基づく、子どもの読書環境整備のため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	—
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

[1]の評価	A
--------	---

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価 B

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価	A
--------	---

4. 総合評価

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続	ウ. 終了 (年まで)	エ. 休止 (年から)	オ. 廃止 (年から)
	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)			
①改革、改善の具体案、実施年度など	—			
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—			